

道央自動車道 虻田洞爺湖～長万部間の開通

道央自動車道は、函館市を起点として、室蘭市、札幌市、旭川市等を経て稚内市に至る全長681 kmの高速道路である。平成8年度末現在、虻田洞爺湖IC～旭川鷹栖間270.2 kmが開通しているほか、札幌自動車道の小樽IC～札幌JCT間38.3 km および道東自動車道十勝清水IC～池田IC間50.3 kmが開通しており今回の開通区間49.3 kmを含めると、道内の高速道路の開通延長は400 kmを超えることとなる。

路線の概要

今回開通した虻田洞爺湖～長万部間は、現在端末として開通している虻田洞爺湖ICから噴火湾（内浦湾）の海岸線に沿った丘陵部を一般国道37号と並行して進み、豊浦ICで同37号と接続、さらに西進し黒松内町で南に向きを変え、長万部ICで一般国道5号に接続するルートとなっている。開通区間延長は49.3 kmであるが豊浦ICを境に東側は中小河川が形成する谷に、西側はなだらかな丘陵に地形が大別されるため、虻田洞爺湖～豊浦間は約半分がトンネルや橋梁の構造物で占められ、豊浦～長万部間は切盛土構造が主体となっている。

事業経緯

本区間は昭和61年1月21日に整備計画決定され、昭和63年11月11日に施行命令を受け、同年12月路線発表を行い、平成5年6月に当該区間で最初の本線工事を着手して以来、総事業費約1097億円を費やし開通を迎えることとなった。

工事の特徴としては、①道内の高速道路では、最長のトンネルとなる金山トンネル（2177 m）をはじめとして8本（合計延長8630 m）のトンネルがあり発破掘削および機械掘削によるNATM工法で施工された。なかでも洞爺トンネルは掘削中に異常出水があり、水抜きボーリング等諸対策を講じている。

②ホロナイ川橋（107 m）は、我が国の高速道路で

は初めて本格的な2主桁橋を採用し、従来の多主桁構造に比べ製作コストの低減や工期の短縮を図るとともに塗装面積が減ることによる管理費の低減や省力化などの経済性、耐久性の向上等にもメリットがあり、平成7年度土木学会田中賞（作品部門）を受賞した。

③今回の区間において、共立地区および大成地区の2箇所で大規模な地すべりの兆候が現れたため、それぞれ集水井、水抜きボーリング、縦断平面線形の変更による対策と排土を中心とした対策を講じたが、大成地区においては、さらに変位があったため抑止杭（鋼管杭）、アースアンカー、押え盛土等の追加対策を講じた。

④豊浦噴火湾PAに隣接して、豊浦町が地域拠点整備事業により推進する「豊浦町噴火湾展望公園」が整備され、この公園には噴火湾の対岸にある主峰駒ヶ岳、北海道の名峰羊蹄山を望むことができる展望塔を中心に各施設が整備され、PAと公園とがハイウェイオアシスとして接続され、これら施設を高速道路から直接利用することができる。

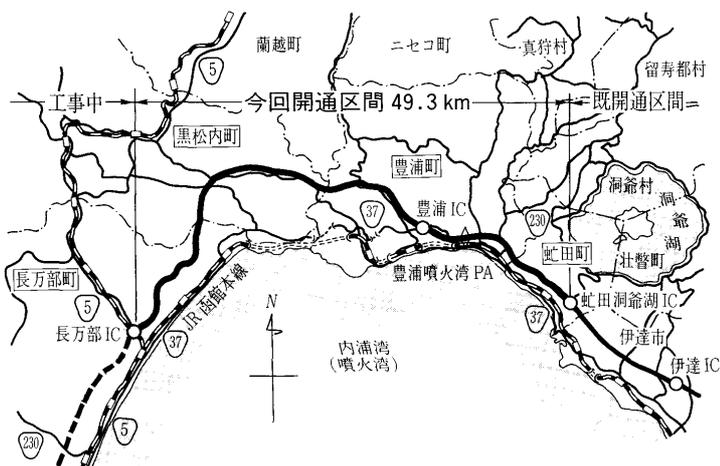
おわりに

今回の開通区間に並行している一般国道37号は室蘭と長万部を結ぶ国道であり、途中には、静狩峠および礼文華峠を抱え交通の難所として知られているが、今回の開通により同区間は高速道路と一般国道の双方で結ばれ、互いに代替道路として機能することから、特に冬期間の交通の安定確保に大きな効果を発揮するものと期待される。また、今回の開通は道南、道央、道北地域の結びつきをより強固なものとし、農業、水産業、工業、観光および文化の交流等の活性化に寄与するものになろう。

文責：松下雅彦 日本道路公団室蘭工事事務所

阿部徳男 日本道路公団長万部工事事務所

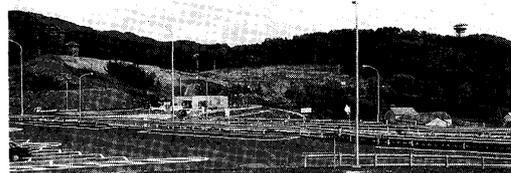
（原稿受理 1997.10.31）



図一 今回の開通区間



写真一 ホロナイ橋



写真二 豊浦噴火湾PAより豊浦町噴火湾展望公園を望む